



概要

名古屋大学大学院人文学研究科附属人文知共創センター（Humanity Center for Anthropocenic Actors and Agency）は、近未来の世界を見据えた新たな価値の創造に人文学がどのように貢献するかを探求するため、2022年11月1日に設立されました。

本センターは、日本学術振興会助成「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」に採択された研究課題「人間・社会・自然の来歴と未来: 「人新世」における人間性の根本を問う」（Anthropocenic Actors and Agency in Humanity, Society, and Nature, 略称: AAAプロジェクト）を実施していくことに活動の軸をおいています。AAAプロジェクトは、2022年から6年間にわたり活動していきます。



挨拶



しばしば人文学は、抽象的で思弁的な議論と見なされ、実社会から遊離しているかのように言われますが、それが実態に即しているかどうかは別として、どうしてそのようなイメージが流布してしまったのでしょうか。人文学の学問的方法には、文献研究、フィールド調査、実験などがありますが、これらは人文学に限ったものではありません。片や自然科学は、実用的で、人々の生活や社会環境の向上に即刻役立つと見なされていますが、科学技術の向上だけでは、未来社会に対し希望を抱くことはできないことも、十分に認識されているでしょう。本プロジェクトは人間・社会・自然の来歴を辿り未来を眺望することで、科学技術と伝統的人文学とを繋げ新たな人文学を確立することを目指します。現在我々が直面している自然環境と社会環境の諸問題の背景に、人間が自らの姿を形作ってきた過程があります。そして技術と共に、人間の生活環境は刻々と変わり、人間自身もまた常に適応的に変容してゆきます。これらを踏まえ、〈他者や自然との柔らかな均衡〉こそが、新たな人類社会で価値を持つことを提言します。

役に立たないというイメージの根元には、人文学が何らかのモノを生産、提供するわけではないということがあるでしょう。しかしながら、人と社会を動かすのはモノばかりでなく、時にはモノ以上に、理念や概念、イメージや言説が強く人と社会を駆動してきたことは、数々の宗教的対立、文化的対立が示す通りです。人文学の基礎にある「自由」や「人権」の理念は、人間・社会・自然についての深い思索から生まれ、人類の歴史を大きく変えてきました。同時にこの人類の歴史は、常にテクノロジーの開発と共にあり、人間は、テクノロジーによって拓かれる予測しがたい未来社会を、この地球に住まうすべての生き物たちと共に生きてゆかなくてはなりません。そのためにも、本プロジェクトが提唱する〈他者や自然との柔らかな均衡〉が必須なのであり、豊穡な人文知を諸科学と連携させつつ、統合的な知の営みを共創する場が必要です。ロボット工学やアート研究、社会システム研究等を内包する本プロジェクトは、学術だけでなく社会を先導する研究となることが期待されています。このようにして本プロジェクトは、学際的に開かれた人文学の叡智が先導する未来社会の道筋を示すことを目指します。

中村靖子 教授

センター長・AAAプロジェクト代表

マイルストーン

01

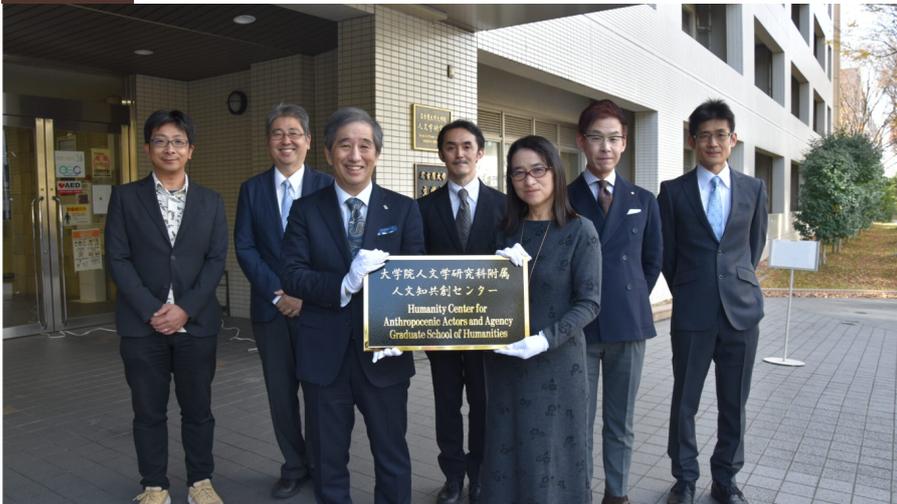


2022.8 | キックオフミーティング

対面参加およびオンライン参加を含め、二日間で延べ49名の研究者およびスタッフが集まりました。

当プロジェクトは、これからの人間の在り方を問うため、その一つのキーワードとしてラトゥールらが提唱したアクターネットワーク理論を掲げています。この理論では、この社会を人間中心に考えず、私たちの身の回りの自然環境や様々なオブジェクトも含め、ノン・ヒューマンも重要なアクターとして捉えます。このとき、対象とすべきアクターの数は膨大なものとなります。加えてそれぞれのアクターの性質やつながりも含めた検討を行うためには、様々な視点、手法が必要となります。それを可能にするのが当プロジェクトが擁するメンバーの多様性です。人文学の手法に加え、自然科学の手法も取り入れつつ、「人新世」における人間性の根本を問う研究および活動を推進していきます。

02



2022.12 | 人文知共創センター
除幕式

人文学研究科附属人文知共創センターは、人文学が自然科学を含むさまざまな分野の研究者と共に協働し、未来社会にむけた総合的な人文知を創出することを目指して設置されました。

除幕式には、杉山直総長、周藤芳幸研究科長、中村靖子センター長、星野幸代副研究科長、梶原義実副研究科長、センター専任教員、センター兼任教員らが参加し、執り行われました。周藤研究科長からはセンターの概要が説明され、「諸科学を先導する人文学という力強い旗印のもと、このセンターが人文学の発展にブレークスルーをもたらすものとなる」ことへの期待が述べられました。続いて杉山総長からは、「総合知」は理系の研究者だけでは達成できない」と、共に「総合知」を共創すべく人文学へのエールが送られました。

マイルストーン



03

2022.12

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」シンポジウムにて報告

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」シンポジウム

未来社会を見据えた 人文学・社会科学分野における 学術知共創の課題について

本シンポジウムでは、「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」の事業内容の紹介と本事業に採択された研究チームの活動の発信のほか、研究者や事業に関心のある方との交流の場を創出することを目的としています。また、本事業の「学術知共創プログラム」を深く知っていただくためのパネルディスカッションも開催いたします。

2022.
12.15 Thu
13:30~16:30
参加費 無料
Zoom
ウェビナー
オンライン開催
お申し込みは 12.14 Wedまで

申し込み方法 右記 URL より必要事項をご記入の上、お申し込みください。

時間	プログラム	発表者等
13:30-13:35	開会挨拶	杉野 隆 (日本学術振興会、理事長)
13:35-13:40	事業説明	田中 真 (日本学術振興会、研究推進部長)
13:40-13:50	事業説明	盛山 和夫 (日本学術振興会、「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」事業委員会、委員長)
13:50-14:20	基調講演 「デジタル時代の研究の進展と課題」	嶋山 英明 (東京大学、教授)
14:20-15:05	学術知共創 「学術知共創プログラム」採択 チーム研究活動報告	出口 康夫 (京都大学、教授) 「よりよいスマート社会」を目標として、東アジア文化圏から産業界へ 移住 渡部 浩典 (東京大学、教授) 「人間」の存在、自然の存在と未来「人間性」における人間性の再考を行う。
15:05-15:15	学術知共創 「学術知共創プログラム」採択 チーム研究活動報告	渡野 俊行 (九州大学、教授) 「大気環境変動の地球システム法則解明のための国際共同研究」
15:05-15:15	閉会	
15:15-16:20	パネルディスカッション 「未来社会を見据えた人文学・社会科学分野における学術知共創の課題について」	司 会 嶋山 和夫 パネリスト 家 憲弘 (伊吹法人中野大学、理事、副総長) 小嶋 真 (筑波大学、学術部長) 島野 正二 (筑波大学、教授) 岸野 隆 (筑波大学、教授)
16:20-16:25	事業説明	盛山 和夫 (日本学術振興会、研究推進部長)
16:25-16:30	閉会挨拶	田中 真 (日本学術振興会、研究推進部長)

Japan Society for the Promotion of Sciences
日本学術振興会
独立行政法人
日本学術振興会 研究事業部 研究事業課
E-mail: h-s@jpps.go.jp TEL: 03-3263-1106,4645

2022年5月末に採択通知を受け、研究期間は6月1日からでした。我々のプロジェクトが、採択と同時に始まっていたのだったら、この時点での報告はなかなか厳しかったかもしれません。しかし、多くのメンバーは長年共同研究を行ってきた仲間であり、今回新たに一緒になったメンバーとも、申請に向けて何度もミーティングを重ねていたため、活動報告は満載でした。

パネルディスカッションでは、本シンポジウムのタイトルでもある「未来社会を見据えた人文学・社会科学分野における学術知共創の課題について」、事業委員長の盛山和夫先生を初めとして人文学以外の方々から、人文・社会科学に寄せる期待が語られました。これらに対し、中村代表からは、研究に携わる当事者として、人文学の人間として、人文学をめぐる社会的・学問的状況について、歴史的な文脈を振り返りつつ、人文学の言葉だからこそ語ることができる「希望」や「救済」、細分化し専門化した知を編むという役割などを紹介しました。いずれも、メンバーとの議論の中から生まれてきたものです。その意味でこの報告は、本プロジェクトの知の結集でありました。

04

2023.3

『予測と創発—理知と感情の人文学』刊行記念シンポジウム / 人文知共創センター設立記念シンポジウム〈けさひらく人文知〉



『予測と創発—理知と感情の人文学』刊行記念シンポジウム

2022年11月30日、『予測と創発—理知と感情の人文学』（春風社）が出版されました。「予測と創発」をテーマに、ドイツ文学、フランス文学、インド哲学、美術史、応用数学、感情史、心理学といった、多岐にわたる分野からの論考が全11章にまとめられています。当シンポジウムではこれらの論考をベースに講演が行われました。

人文知共創センター設立記念シンポジウム〈けさひらく人文知〉

プロジェクトが発足し半年以上が経ちました。班別会議を重ねる中で少しずつ方向性が見えてきた今、あらためてスタートを切るためのシンポジウムを開催しました。

冒頭では、杉山直名 古屋大学総長、佐久間淳一 名古屋大学副総長からの挨拶がありました。杉山総長は、「幸せには科学技術だけではたどりつけません。現代社会が非常に複雑になっている中、人の営みを明らかにしていく人文知も必要です」と話し、「人間の価値や尊厳といったものも含めて、人文知で解き明かしていってほしい」とエールが送られました。

活動(2023年度)

2024.3.30-31 2023年度全体研究集会(春)

AAAプロジェクト第4回研究集会

2024.3.30(土)-31(日)

会場:名古屋大学東山キャンパス
文学部本館・大会議室110号室

AAA

2024.3.30(土)

セッション1:ローマ情報報告 (司会:武田宙也,京大)

13:00-13:20 武田宙也(京大) 13:20-13:40 池野絢子(青学)
13:40-14:00 ニ室型(京大) 14:00-14:30 討論

14:30-15:00 休憩

セッション2:生成AIと主体化するノンヒューマン一人間のようなものと感情のようなもの (司会:南谷泰良,京大)

15:00-15:20 鈴木麗霊(名大) 15:20-15:40 大道麻由(+高橋英之)(阪大)
15:40-16:00 宮澤和貴(阪大) 16:00-16:30 日永田智絵(奈良先端科学技術大学院大学)
16:30-16:50 伊東剛史(東京外大) 16:50-17:30 討論

17:30-18:00 超重要連絡連絡地
18:30-21:00 情報交換会&研究交流

2024.3.31(日)

セッション3:ハワイパネル (司会:岩崎陽一,名大)

10:00-10:20 岩崎陽一(名大) 10:20-10:40 立花幸司(千葉大)
10:40-11:00 和泉悠(南山大) 11:00-11:20 大平英樹(名大)
11:20-11:40 中村靖子(名大) 11:40-12:00 討論

12:00-13:30 休憩

セッション4:セクシュアリティの多様性 (司会:鳥山定嗣,京大)

13:30-13:50 鳥山定嗣(京大) 13:50-14:10 マリー・ボウイング(朝学大)
14:10-14:30 立木健介(京大) 14:30-14:50 坂口朝暉(NIAO-DE)
14:50-15:10 討論

15:10-15:40 休憩

セッション5:理論班 (司会:中村靖子,名大)

15:40-16:00 金徳行(経法大) 16:00-16:20 田村哲樹(名大)
16:20-16:40 大平豊・大平健太(名大) 16:40-17:00 柳澤喜(名大)
17:00-17:20 平田陽(南山大) 17:20-18:00 討論

問い合わせ:人文知共創センター zheng@nagoya-u.jp <https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/aaa/>



AAAプロジェクト第4回全体集会 特別企画セッション

生成AIと主体化するノンヒューマン一人間のようなものと感情のようなもの

15:00-15:20 鈴木麗霊(名古屋大学)
15:20-15:40 大道麻由・高橋英之(大阪大学):生成物語
15:40-16:00 宮澤和貴(大阪大学)
16:00-16:30 日永田智絵(奈良先端科学技術大学院大学):感情のモデル
16:30-16:50 伊東剛史(東京外国語大学):感情史
16:50-17:30 討論

2024.3.30(土)
15:00-17:30 文学部本館
大会議室110号室
参加無料

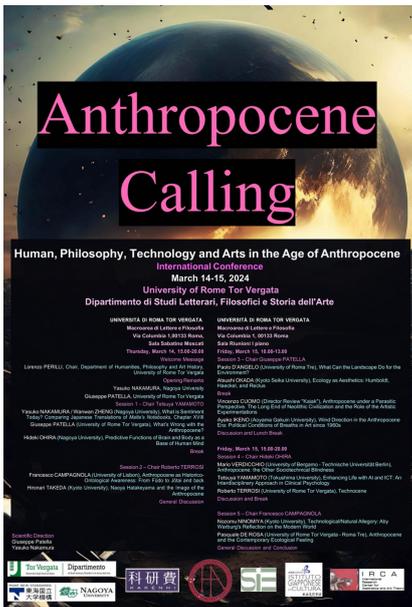
問い合わせ:人文知共創センター zheng@nagoya-u.jp <https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/aaa/>

2022年8月11日、12日に最初のキックオフミーティングが開催されてから早くも1年半。2024年3月30日、31日に全体研究集会が開催されました。現在進行中の研究も、部分的に成果もまとめられ、発表が盛んに行われるようになってきました。

初日の午後、特別企画セッション「生成AIと主体化するノン・ヒューマン一人間のようなものと感情のようなもの」では、鈴木麗霊准教授(第1班)、伊東剛史准教授(第2班)、宮澤和貴助教(第3班)だけでなく、日永田智絵先生(奈良先端科学技術大学院大学)、大道麻由氏(大阪大学)により、「感情モデルの開発～感情

理解に向けた構成論的アプローチ～」、「物語を共有するロボット」と題した研究発表がなされました。

2024.3.14-15 ローマ国際会議



2024年3月14日から15日にかけてローマ・トル・ヴェルガータ大学との共催で、同大学にて「Anthropocene Calling」と題した国際会議を開催しました。人文学部学科長ロレンツォ・ペリリ教授からの歓迎の辞に続き、ジュゼッペ・パテッラ教授と中村靖子教授から開会の挨拶が述べられました。

イタリアからは、パテッラ教授(トル・ヴェルガータ大学)、パオロ・ダンジェロ先生(ローマ・トレ大学)、ヴィンツェンツォ・クオーモ先生(Director Review "Kaiak")、ロベルト・テッロージ先生(トル・ヴェルガータ大学)、フランチェスコ・カンパニョーラ先生(リスボン大学)、マリオ・ヴェルディッキオ先生(ベルガモ大学)、日本からは、中村靖子代表(第1班)、武田宙也グループリーダー(第5班)、池野絢子准教授(第5班)、大平英樹教授(第5班)、山本哲也准教授(第5班)、二宮望RA(第5班)、ゲストスピーカーとして岡田温司先生(京都大学名誉教授・京都精華大学)が参加しました。

このシンポジウムは、科学的な分析概念、社会実践の指針となる標語、創造的な芸術的活動の原動力など、多様なレイヤーをもつ「人新世」に、

学術的な深みを与え、より広範な議論へと拡張していくためにも、きわめて貴重な足がかりとなりました。



• 2024.3.7 テキストマイニング講習会



テキストマイニング講習会

2024 3/7(木) 14:00-17:30
名古屋大学東山キャンパス 文学部講義棟128室

使用ソフト MTMineR

講習内容

- ・ソフトの使い方
- ・データの集計と分析
- ・+α

参加ご希望の方は3/1(金)までに一報いただけますと幸いです。当日参加も歓迎です。
<https://github.com/mtminer/mtminer>をご参考に、各自、分析したい文書をご用意ください。事前準備として必要なことについては、同サイトの「準備マニュアル」をご参照ください。ご不明な点があれば、お気軽にお問い合わせください。

問い合わせ：人文知共創センター zhang@nagoya-u.jp <https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/002>

名大カフェ100回 × 高等研究院ウェビナー

いつ、どこに意識は宿る？
脳神経科学に関わり、われわれの正体

第1班 18:00-18:50 会場階 第2階
「SPストーリーから考える、脳研究のフロンティア」

第2班 19:00-20:00 会場階 第2階+YouTubeライブ(申込不要)
「意識の研究における理論と実験、そして謎」

2024.1.12 金 18:00-20:00
会場：名古屋大学 NIC11階 Idea Stoa (一部オンライン) 参加無料

2024年3月7日に名古屋大学にて、「テキストマイニング講習会」を実施しました。2023年5月31日に京都大学で第1回を行い、今回は名古屋大学での開催です。参加者各自のデータを使って、テキストマイニングソフトMTMineRの操作や初歩的なデータの集計、分析の演習を行いました。

• 2024.1.26 中村代表が人社委員会で報告しました

科学技術・学術審議会学術分科会 人文学・社会科学特別委員会(第21回)において、中村代表が人文知共創センターの活動について報告しました。これに関して、名古屋大学人文学研究科の周藤芳幸研究科長により「研究科長だより」で紹介されました。

• 2024.1.12 中村代表、大平英樹教授が名大カフェに登壇しました

名大カフェ第100回 × 高等研究院ウェビナーでは、文学、脳神経科学、実験心理学など、様々な分野の研究者が集い、「意識」の謎を探りました。

• 2023.12 伊東剛史准教授（第2班）、平田周准教授（第1班）、中村代表の論文が『現代思想2023年12月号 特集＝感情史』に掲載されました

伊東剛史「ひらかれた感情史のために」 pp.26-35

平田周「ある「世俗的心理学カテゴリー」が辿り着いたひとつの場所」 pp.121-135

中村靖子「言葉と感情、言葉とツール」 pp.189-200

• 2023.8.27-28 2023年度全体研究集会（夏）

8月27日の第3班第4班合同セッションでは「テキストマイニング報告」を行いました。テキストの統計的な処理に基づく感情表現や人物像の分析という観点から活発な議論が交わされ、文学研究と心理学の関連性や応用可能性についても言及がなされました。

8月28日は、第2班第5班合同セッションを開催しました。本プロジェク




AAAプロジェクト第3回研究集会

会期 2023.8.27(日) - 28(月)

会場 名古屋大学東山キャンパス 文学部本館・大会議室110号室

2023.8.27(日)

13:00-13:30 進捗報告 (中村靖子(名大))

13:30-14:00 「言語獲得と主体化プロセス」 (司会 南谷幸良, 京大)

14:00-14:30 「セクシュアリティの多様性」 (司会 鳥山定嗣, 京大)

14:30-15:00 「生政治とアート」 (司会 武田宙也, 京大)

15:00-15:30 「理論」 (司会 中村靖子, 名大)

15:30-15:40 休憩

15:40-16:10 「自然と人間との相互関係性」 (司会 岩崎陽一, 名大)

16:10-17:30 3班4班合同テキストマイニング報告 (司会 鄭鳴鳴, 名大)

17:30-18:00 ディスカッション (司会 岩崎陽一, 名大)

18:30-21:00 情報交換会&研究交流 (MC 岩崎陽一, 名大)

2023.8.28(月)

10:00-12:00 (司会 金信行, 大阪経済法科大)

連関の社会学と共存への問い：異種混成的な「しがらみ」をめぐる記述と実践に向けて

13:30-15:30 第2班&第5班の合同企画 (司会 武田宙也, 京大)

「新しい自然哲学に向けてーグナ・ハラウエイのフェミニズム、サイエンスとグレイバーの基盤的アナキズム、ラトウルのANTを媒介に」 近藤和敬(阪大)

「自然認識と実在に関してグレイバーvsデカストロ」 森元斎(長崎大)

15:30-17:30 ディスカッション (司会 中村靖子, 名大)

問い合わせ：人文知共創センター zhang@nagoya-u.jp <https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/002>

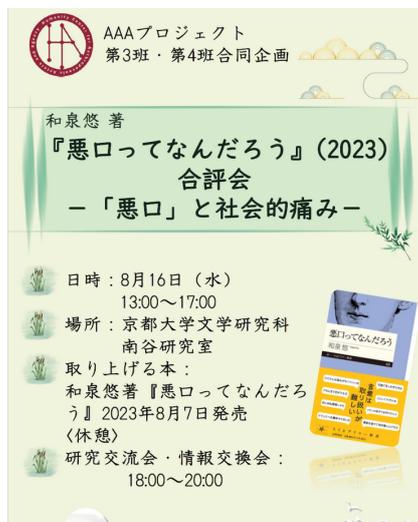
トの理論的柱となるアクターネットワーク理論について、栗原亘先生（高千穂大学）、近藤和敬先生（大阪大学）がゲストスピーカーとして報告を行い、森元斎准教授（第2班）が応答する形で自然との共生、暴力について報告し、活発な議論が交わされました。



• 2023.9.18 第3班特別会議

9月18日に大阪大学長井研究室のロボット研究環境および実際に動作するロボットの視察が行われました。本会議を通して、第3班の研究におけるロボットや言語モデルの利用方法について、文学、情報心理学、人類学の観点から議論が交わされました。

• 2023.8.16 『悪口ってなんだろう』（和泉悠著）合評会



AAAプロジェクト
第3班・第4班合同企画

和泉悠 著
『悪口ってなんだろう』（2023）
合評会
- 「悪口」と社会的痛み -

日時：8月16日（水）
13:00～17:00
場所：京都大学文学研究科
南谷研究室
取り上げる本：
和泉悠著『悪口ってなんだろう』2023年8月7日発売
〈休憩〉
研究交流会・情報交換会：
18:00～20:00

本書は、研究会メンバーでもある著者和泉悠准教授（第3班）が行っている、言語のダークサイド研究を一般向けに解説したもので、特に「悪口」と日常的に呼ばれるものに焦点を当てています。合評会には、各班からメンバーが参加し、文学作品やSNSの記事などから多くの事例を引いて、「悪口を言う」心理やそれを聞く者の反応など、「悪口を言うことの功罪」について、活発な意見交換がなされました。

• 2023.5.26 第4班ワークショップ「17世紀～21世紀のフランス文学におけるジェンダーと性」

京都大学にて、「17世紀～21世紀のフランス文学におけるジェンダーと性」と題するワークショップを催しました。鳥山定嗣グループリーダー（第4班）とボーヴィウ・マリ＝ノエル准教授（第4班）に加え、シャルル・ヴァンサン先生（ヴァランシエヌ大学）、ラファエル・ブラン先生（リヨン高等師範学校）、ジュスティヌ・ル・フロック先生（京都大学）をゲストスピーカーとして、各自の研究紹介と意見交換を行いました。

• 2023.5.10 日本経済新聞朝刊に人文知共創センターの記事が掲載されました

記事の題目は、「名古屋大学、AI進化で人のあり方考察 -UPDATE 知の現場 名古屋大学 人文知共創センター-」になっています。

• 2023.3.28 2022年度全体研究集会（春）

「お互いすり合わせるというより、セッションです」中村代表は研究会について、このように話しました。メンバーそれぞれが面白いと思うことを模索し、お互いに聞きあいます。そうして生まれる臨場感や緊迫感が、今までになかった研究テーマを生み出しつつあります。これについて、池野絢子准教授（第5班）は、伊東剛史准教授（第2班）が企画したシンポジウムを通して自身のテーマが見えてきた報告がありました。

• 2023.3.11 第2班第1回班別会議

第2班の第一回班別会議では、ヒトと動物の関係学会のシンポジウムを控え、研究報告が行われました。はじめに、動物と人間、または人間とそれ以外のものの関係について人文学的な面から考えていこうとする趣

旨の説明がありました。立花幸司助教（現准教授）（第2班）からはアリストテレスの徳論理学について説明がありました。



• 2023.2.18 セミナー「人新世」におけるアート

第5班は、京大名誉教授の岡田温司先生を迎えて「アントロポセンとアート」と題したご講演を行っていただきました。これが、ローマ国際会議の発端となりました。



17世紀～21世紀のフランス文学におけるジェンダーと性
GENRE(S) ET SEXUALITÉ(S) DANS LA LITTÉRATURE DE LANGUE FRANÇAISE (17E-21E SIÈCLES)

5月26日 金
10:30～15:00
Vendredi 26 mai 2023

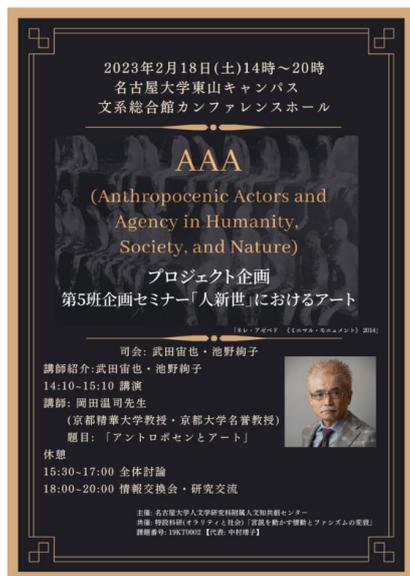
言語 フランス語
(通訳なし)
Langues français
(sans traduction simultanée)

場所 京都大学文学研究科南谷研究室
Lieu Université de Kyoto
Faculté des Lettres - B6-étage



第4班セクシュアリティをめぐるワークショップ

Justine Le Floch ジュスティヌ・ル・フロック (京都大学)
Charles Vincent シャール・ヴァンサン (フランス、ヴァランシエヌ大学)
Raphaëlle Biret ラファエル・ブラン (フランス、リヨン高等師範学校)
Tatjana Trgovc タタヤナ・トロヴツ (リヨン高等師範学校)
Marie-Noëlle Beauvieux マリ＝ノエル・ボーヴィウ (明治学院大学)



2023年2月18日(土)14時～20時
名古屋大学東山キャンパス
文系総合館カンファレンスホール

AAA
(Anthropocenic Actors and Agency in Humanity, Society, and Nature)
プロジェクト企画
第5班企画セミナー「人新世」におけるアート

司会: 武田宙也・池野絢子
講師紹介: 武田宙也・池野絢子
14:10～15:10 講演
講師: 岡田温司先生
(京都精華大学教授・京都大学名誉教授)
題目: 「アントロポセンとアート」

休憩
15:30～17:00 全体討論
18:00～20:00 情報交換会・研究交流

主催: 名古屋大学文学研究科人文知共創センター
共催: 情報科学(イノバティクス) 情報学(知と行動) システム学(システム学)
講師番号: 18ACT002 【代席: 中村博子】

● 共催企画「終わらない読書会—22世紀の人文科学にむけて」

共催：学術知共創プログラム先導的人文学・社会科学研究「人間・社会・自然の来歴と未来—「人新世」における人間性の根本を問う」

終わらない読書会 —22世紀の人文科学に向けて

【読書会概要】

- 参加費無料・オンライン読書会 (@Zoom)
- 参加方法：Google Formによる事前登録 <https://forms.gle/WBoxDY4M4XfxDZNA6>
- 運営：南谷奉良(京都大学)・小林広直(東洋学園大学)・平繁佳織(中央大学)
- 協力：佐次田哲(システムエンジニア)
- 共催：「人間・社会・自然の来歴と未来—「人新世」における人間性の根本を問う」(JPJS00122674991)



【読書会構成】

第1部 AIが読む文学
GPT3モデルとDALL・E2を組み込んで独自に開発したチャットアプリ「AIVIS」を使用して、参加者共同で対象作品に関するテキスト生成や画像生成を行い、その出力結果を批判的に検討します。

第2部 人間が読む文学

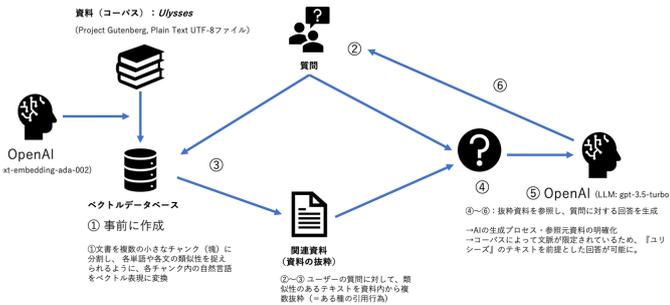
登壇講師による「ヒト・動物・モノ・機械・自然」を主題とした文学作品を説明します。登壇講師と対象テキストは毎回変わります。

第3部 市民が読む文学

参加者による登壇講師への質疑とオープンディスカッションを行います。質疑は「AIVIS」及びZoomのチャットを利用します。



対話型チャットボードAIVISの新機能「コーパス」について



【企画趣旨】

2019年から2022年にかけて開催した『2022年の『ユリシーズ』—スティーヴンズの読書会』の後継企画として、「人工知能×人文知×市民知」をコンセプトとした読書会「終わらない読書会—22世紀の人文科学に向けて」を開催しています。運営は南谷奉良(京都大学)・小林広直(東洋学園大学)・平繁佳織(中央大学)により行われます。読書会のタイトルは前身企画の終了に際して寄せられた「終わらないでほしい」という参加者の声と、長期的なスパンで人文科学の可能性を展開する

ビジョンを盛り込んでいます。このため終了時期を定めずに実施致します。2023年から2026年にかけては、学術知共創プログラム先導的人文学・社会科学研究「人間・社会・自然の来歴と未来—「人新世」における人間性の根本を問う」(JPJS00122674991)との共催です。読書会はAIが読む文学・人間が読む文学・市民が読む文学の3部構成で、それぞれが生成する知を批判的に重ね合わせながら、毎回の登壇講師が選定する「ヒト・動植物・機械・モノ・自然」をめぐり、その境界が揺らぐ主題をもつ文学作品を読解していきます。読書会内では、システムエンジニアの佐次田哲と南谷が共同開発した匿名チャットボード“Outis”に生成AI機能(テキスト生成と画像生成)やコーパス機能を加えた“AIVIS”を導入し、人間とノンヒューマンの協力的な関係を模索しています。

URL : <https://a3hsn.org/reading/>

● テキストマイニングツールMTMineR

MTMineR (Multilingual Text Miner with R ; エム・ティ・マイナー) は、元同志社大学教授金明哲により2000年から開発し続けてきたテキスト型データをさまざまな方法で構造化し、統計分析や機械学習を行う高機能のテキストマイニングおよびテキストアナリティクスツールである。テキスト型データを構造化して集計し、Rを用いて統計的に分析する。これにより、文学作品・アンケートの自由記述・新聞記事などさまざまなテキストを処理し、データを集計することができます。テキストの統計的解析を勉強する方々のため、無償で本ツールを公開します。ただし、著作権を放棄することを意味するものではありません。

このソフトはテキストデータを前処理し、集計したうえで、主成分分析、クラスター分析、ワードクラウド、トピックモデルなどの分析法のみならず、サポートベクターマシンやランダムフォレストにいたる最新の機械学習アルゴリズムを実装しています。これにより、統計学などの専門的知識がなくても、さまざまな分析法を簡便に用いることを実現します。

URL : <https://a3hsn.org/nlptools/>

MTMineR

研究組織



01 理論班

中村靖子 代表・グループリーダー
大平徹
田村哲樹
鈴木麗壘
鄭弯弯
平田周
金信行

名古屋大学大学院人文学研究科（ドイツ文学）
名古屋大学大学院多元数理科学研究科（応用数学）
名古屋大学大学院法学研究科（政治学）
名古屋大学大学院情報学研究科（複雑系科学）
名古屋大学大学院人文学研究科（文化情報学）
南山大学外国語学部（フランス社会思想史）
大阪経済法科大学国際学部国際学科（社会情報学）

02 自然と人間の相互関係史

岩崎陽一 グループリーダー
立花幸司
伊東剛史
森元斎
高橋英之 大阪大学大学院基礎工学研究科（認知科学・ヒューマンエージェントインタラクション）
鈴木明恵 RA

名古屋大学大学院人文学研究科（インド哲学）
千葉大学大学院人文科学研究院（古代ギリシア哲学・倫理学）
東京外国語大学大学院総合国際学研究院（感情史）
長崎大学多文化社会学部（アナキズム研究）
名古屋大学大学院人文学研究科（インド哲学）

03 言語獲得と主体化プロセス

南谷奉良 グループリーダー
和泉悠
池田慎之介
長井隆行
宮澤和貴
平井尚生 RA
楠元淳平 RA

京都大学大学院文学研究科（英語圏文学）
南山大学人文学部（言語哲学）
金沢大学人間社会研究域学校教育系（発達心理学）
大阪大学大学院基礎工学研究科（知能ロボティクス）
大阪大学大学院基礎工学研究科（知能ロボティクス）
京都大学大学院文学研究科（英語圏文学）
京都大学大学院文学研究科（英語圏文学）

04 セクシュアリティの多様性

鳥山定嗣 グループリーダー
ボーヴィウ・マリ＝ノエル
立木康介
坂口菊恵
西村真悟 RA

京都大学大学院文学研究科（フランス文学）
明治学院大学文学部（日仏独アフォーリズム研究）
京都大学人文科学研究所（精神分析）
大学改革支援・学位授与機構研究開発部（内分泌行動学）
京都大学大学院文学研究科（フランス文学）

05 生政治とアート

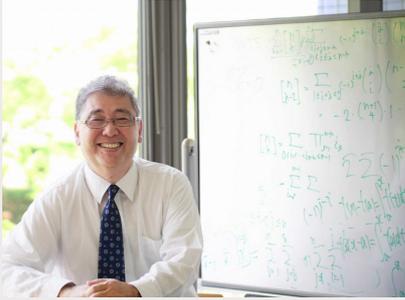
武田宙也 グループリーダー
池野絢子
山本哲也
大平英樹
二宮望 RA

京都大学大学院人間・環境学研究科（美学・芸術学）
青山学院大学文学部（イタリア現代美術）
徳島大学社会産業理工学研究部（臨床心理情報学）
名古屋大学大学院情報学研究科（認知神経科学）
京都大学大学院人間・環境学研究科（美学・芸術学）

PHOTOWALL



中村靖子代表



大平徹教授



大平健太研究員



岩崎陽一
グループリーダー



南谷奉良グループリーダー



伊東剛史准教授



高橋英之准教授

武田宙也グループ
リーダー・
山本哲也准教授



池野絢子准教授



宮澤和貴助教



鳥山定嗣グループリーダー



坂口菊恵教授



大平英樹教授とエスポジト先生

ナポリでエスポジト先生を囲んで

文学部・人文学研究科秋季サロン ホームカミングデー2023

予約不要・入場無料
13:00-14:30 文学部237教室

10月21日
(土)

ハイブリッド人文学
—スキルとツールの共進化—

講師
中村靖子(ドイツ語ドイツ文学, 教授, 人文共創センター長)
宮城麻一(シンドロノミクス, 准教授)
鄭亨秀(文化情報学, 助教)

Co-Author Network for Digital Humanities

問い合わせ: 人文知共創センター・Humanity Center for Anthropogenic Actors and Agency TEL:052-769-5938 <https://www.hum.nagoye-u.ac.jp/haa/>

2023年度文学部・人文学研究科秋季サロン企画



第2回全体集会懇親会



第3回全体集会懇親会



第4回全体集会懇親会



名古屋大学大学院人文学研究科附属
人文知共創センター

Humanity Center for Anthropogenic Actors and Agency

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

TEL : 052-789-5958

<https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/aaa/>

<https://a3hsn.org/>

編集・レイアウト：鄭弯弯

協力：綾塚達郎（名大サイエンスコミュニケーター）

発行年月日：2024年4月25日